

日本大学
国際関係学部

校友会々報

第42号

静岡県三島市文教町 2-31-145

日本大学国際関係学部
校友会

平成二十三年年度 常任幹事会・幹事会開催

●常任幹事会

平成二十三年六月二十五日(土)十六時から三島市広小路町「バステリア」地中海において開催された。相田信次会長挨拶の後、会長進行により議事に移り、幹事会提案事項について田中由雄幹事長及び山瀬匠會計担当並びに柴田正頼間、相田信次会長から各項目ごと詳細にわたり説明があり審議された。

●幹事会

平成二十三年六月二十五日(土)十七時から、常任幹事会に引き続いて幹事会が開催された。高野誠常任幹事の司会で進行され、相田信次会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。議長には久保田博明常任幹事、副議長には斎藤聡常任幹事、書記には露木ひろみ常任幹事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。

平成二十二年事業報告
監査報告

新幹事に関する件
平成二十三年事業計画(案)

各周年事業準備金に関する件
会長賞等 給付規程改正に

関する件
会長賞等表彰規程に関する

件
会則改正に関する件
役員改選に関する件

その他
本部校友会報告
本部校友会報告

田中由雄幹事長から、平成二十二年事業報告を総じて平成二十二年事業報告を山瀬匠會計担当から報告、藤本文彦會計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。

校友会委員名簿完成までの校友への通知等を鑑みするため、平成二十三年度は国際関係学部五名食物栄養学科一三名が新幹事として事務局からの推薦があり承認された。

(案)については田中由雄新幹事長から平成二十三年度収支予算(案)について、山瀬匠會計担当から提案説明がなされ、審議の結果二議案とも承認された。

各周年事業準備金に関する件に

については柴田正頼間から次の三項目の事業準備金として日本大学創立五〇周年(平成五十年)は一〇〇万円、国際関係学部創立五十年(平成四十四年)は八五〇万円、三島学園開設七五周年(平成三十三年度)は七五〇万円を目標額とした。この報告が承認された。会長賞等給付規程改正並びに表彰規程に関する件については田中由雄幹事長から給付規程第六条二項の給付額を三〇〇〇円に改正し、それに伴う表彰規程を制定した旨の提案説明がなされ承認された。会則改正に関する件については田中由雄幹事長から会則第五十一条構成及び第二十二條表彰改正の提案説明がなされ承認された。役員改選に関する件については田中由雄幹事長から現役員の任期が平成二十四年三月三十一日付で満了となるが次期役員を審議していただきたい旨の提案がなされ審議の結果現役員の再任となった。三議案の会長については国際関係学部同窓会から選出することで承認された。続いて、本部校友会に賛同する件について田中由雄幹事長から本年三月三十一日に定年となった西村奥田、瀬川三郎間に会則第二十二條第一項に基づき功労者として感謝状を授与したい旨の提案がなされ承認された。なお、授与式は七月二十三日開催の総会にて挙行政とした。

本部校友会報告としては田中由雄幹事長から東日本大震災で被害にあった学生に対しての生活費の一部として校友会からの法人へ一億円の支援寄付をすることとなり、各学部の校友会も協力することとなり、その他として田中由雄幹事長から五月三日開催の東日本大震災チャリティ講演会の義援金及び六月十八日、十九日開催の第六回食育推進全国大会の参加学生援助等の内容報告がなされた。また、柴田正頼間から正会員への加入促進と国際関係学部及び短期大学部卒業生の就職先斡旋に校友会として協力した旨の要望があった。

次に田中由雄幹事長から、会報(第四十二号)発行について毎年のとおり校友会会長賞授与者一名と各学生団体の委員長に原稿依頼をした旨の報告がなされた。

「危機に備え、さらなる飛躍を」



国際関係学部部長
佐藤 三武朗

国際関係学部校友会の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと推察いたします。

三島キャンパスの発展は、校友会の皆様のご理解とご支援のたまものと、心から感謝を申し上げます。

さて、「備えあれば憂いなし」と申しますが、今年三月十一日に発生した東日本大震災は、私たちに多くの教訓を与えました。地震、津波、原子力発電所事故という三重苦は、日本の経済・政治の根底を覆すほどの一大事でした。千年に一度の甚大な災害とは言え、改めて日本が災害国であり、自然の脅威に対して、十全な備えをしておかなければならないことを痛感させられました。他方で、世界各国からの温かい支援と協力は、困窮する東日本の人々の心に感動を与えました。国内においては、他人を思いやる心、支えあう精神から、物品両面の支援や義援金がありました。ボランティア活動による支援は、阪神淡路大震災での教訓を踏まえて、実に大規模に行われました。

えるには、大学内部の連携だけでなく、地域との連帯が重要となります。従って、普段から、三島市との連携を重視した施策を立てるよう心掛けています。

国際関係学部の校友の皆様は、本学部が地域連携を重視していることをご存じと思います。大学祭には三島市民が多く訪れます。これは本学部の特色です。昭和二十一年に予科が開設されて以来、本学部は市民との連携を重視して来しました。仮装行列などは三島市内を練り歩くなどして、市民から大好評でした。もちろん、交通事情が今とは異なる時代でしたから、こうした行事が可能でした。

今年、六月十八日と十九日の二日間に亘って、第六回食育推進全国大会が本学部を会場として開催され、全国から延べ、七二八〇〇名の人々が訪れました。皆様が慣れ親しんだ銀杏並木の大通りが歩行者天国になりました。おそらく、三島キャンパスが開設されて以来の大きな出来事と思います。これも本学部が三島市と連携しているからです。とりわけ、本学部には食物栄養学科があり、食育基本法が施行されてから、県や市から多大な関心を集め、三島市内の小中学校と連携して、生徒に食育の在り方を定着させる契機ともなっています。学生自身が参加をしますから、実務を学ぶ良い機会となっています。

近い将来、東海地震の怖れがあることが指摘されています。危機に備えることが大事です。学内においては、従来と異なる避難訓練の実施や、緊急事態を予想して常備された非常食の点検などの措置を取りました。

地震や台風などの一大事に備

校友の皆様が本学部に進んだ頃と大きく違うのは、学科の体制です。昭和五十四年に、国際関係学科と国際文学科の二学科で発足しましたが、国の要請を受けて、平成十一年に国際交流学科と国際ビジネス情報学科の二学科を加えた四学科体制となりました。しかし、少子化時代をどう乗り切るか、創立時とは異なる世界情勢に対応した人材の育成をどうするかという観点から、日本大学本部の理解を得て、本年四月から、国際総合政策学科と国際教養学科の二学科体制へと大きく学部再編成をしました。学科が少なくなれば、学生の選択領域が減るという心配から、

「校友会のご支援を」



国際関係学部事務局長
若松 俊雄

コースを設け、学生の興味や関心を高めるようにしました。学生は自らの資質や将来設計を念頭に、コースを選択して、自分を高めることが可能です。一年次から、スタディスキルという科目を置き、教授の指導の下、レポートの書き方や分析の仕方の基礎を徹底して教えるようにしました。

学生が主役です。次世代を狙う人材を育成こそ急務です。私たち教職員は、一丸となって学生の指導と教育に邁進します。

校友の皆様のご理解とご支援を、よろしくお願い申し上げます。

校友会の皆様には、ご清栄のこととお慶び申し上げます。私は、平成二十年十月、文理学部から異動し、昨年九月事務局長として勤務している若松俊雄と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、去る三月十一日発生した東日本大震災において被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、福島原子力発電所では、津波により施設が破壊され、最悪の事故が発生し、多くの人々が避難所生活を強いられています。

ます。一日も早く復興することを願っています。

本震災に伴う災害救助法適用地域に居住の保護者を持つ本学部学生は五月二十七日現在、四六〇名在籍していますが、幸いに行方不明や死亡の者はいません。しかし、五家族の方が全壊、二家族の方が半壊の被害を受けています。また、二家族の方が原発事故による避難生活をしていました。特別措置を考えていかなければならない対象者は、今後復興とともに増加することが見込まれます。

本学部では、震災の発生直後から学生やご家族の安否の確認の作業を進めるとともに、学部を挙げて募金活動を行うなど、できる限りの支援をしてきました。震災の被害を受けた学生の皆さんが安心して勉学できるよう各種の支援を講じております。

さて、国際関係学部は平成二十三年度に大きく学科の改組をし、「国際総合政策学科」と「国際教養学科」の新学科の初めての入学試験を実施しました。受験志願者の数は、一般入試では、昨年の二、〇八三名に対して、二、四五名と、前年度より上回ることができましたが、大学入試センター試験では昨年の二、〇三五名に対して二、二七名と、大きく下回ったため最終的な志願者は、九七二名となり、昨年六年ぶりで越えた二、〇〇〇名を割り込んで、前年度比六八％の減少となりました。

短期大学では、入学定員を充足できない状況が続いておりますが、食物栄養学科では入学定員二二〇名に対し、入学手続者は一二五名で、平成十八年以來四年ぶりに入学手続者が定員を超過しました。商経学科においては、入学定員二五〇名に対し、入学手続者は二二〇名で、平成十五年度から八年間入学定員を充足できない状況が続いています。

現在の厳しい就職状況が好転しなければ文系志願の減少傾向は変わらなると予想されますので、来春の入試も苦戦を強いられることとなります。校友会の皆様には、学部のPRとともにぜひとも受験生の確保にご協力をお願い申し上げます。

次に、平成二十一年四月に施行しました「日本大学国際関係学部校友会奨学金給付規定」に基づく運用についてご説明します。この奨学金は本学部の教育研究基金のうち五億円を国際関係学部校友会奨学金支援金として組み替え、その事実と校友会からの寄付金によって運用されています。平成二十三年度の学部短大(三島)の奨学生数は、第一奨学生(二年以上在学)の学生二八名、第二種奨学生(二年以上在学)の学生一九名、合わせて三七名の学業成績優秀者に対し一人当たり二五万円を給付することができました。

最後に現在来年三月の竣工を目指す三島駅北口のすぐ前に、新校舎の建設を進めていることをお伝

えます。校地は四九二〇平方メートル、校舎は鉄骨工法の八階建てで総延べ床面積は約二五、〇〇〇平方メートルで、最新の設備を備えた教室、講堂が設備されます。新校舎が完成すれば、ソフトとハードの両面から、教学の一層の充実が図られ

「会長三期目の抱負」



相田 信次
国際関係学部校友会会長

校友会の皆様には置かれましては益々ご健勝のことお慶び申し上げます。平素は国際関係学部校友会に対し、格別のご支援とご協力を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

去る三月十一日に発生しました数百年に二度の未曾有の東日本大地震で被災されました校友会の皆様も居られるかと思えます。ご家族ご親戚ご友人の方々などが避難所等で不自由な中でお過ごしだと思います。心からお見舞い申し上げます。又犠牲になられた方々に対しまして哀悼の意を申し上げます。

平成二十三年度国際関係学部校友会総会を七月二十三日(土)

学生も安心して勉学に打ち込めることを期待しております。

校友会の皆様には、これからも国際関係学部、短期大学部(三島)の教育活動に対しご支援を賜りますようお願い申し上げます。

しまプラザホテルにて開催しました。議事の中で次期の役員改選が審議され満場一致で次期も現役員体制(執行部)でいくことが承認されました。任期は平成二十四年四月から平成二十七年三月の三年間です。

今迄は国際関係学部同窓会と桜葉会の総会は各々単独で開催して居りますが、私の三年間の任期中には国際関係学部校友会と国際関係学部同窓会桜葉会の総会を合同で開催するためにご理解を頂けるよう努力していきたいと思っています。しかし、卒業生で校友会の存在すら知らない方も居ます。卒業して校友会の新会員となることをよく理解してもらうために、

学生にも校友会活動や事業に積極的に参加して頂く様にしたいと思っています。校友会は文字通り老若男女色々な分野で活躍されており、この素晴らしい校友会の存在価値、存在意義を感じ、愛校心を人一倍持てる様にして参り、校友同志の「絆」を強くしていきたいと思

国際関係学部は来年三月の竣工を目指してJR三島駅北口に新校舎の建設を進めており、新校舎が完成すればソフトハード両面で、更なる教育の充実が図られます。建物は鉄骨造地上八階建てで、教室、講堂、食堂などが設置されます。日本大学校友会役員総会が七月一日に東京ドームホテルにて開催され次期会長選挙が行われ満場一致で田中英壽会長が再選されました。任期は三年間です。

日本大学は創立二五周年記念事業実施委員会が事業実施に動き出しました。組織は総長、理事長を正副委員長に、委員一三八人、幹事四人で構成し、さらに全学を網羅する推進委員会を置き、その下に記念募金実行委員会、記念式典実行委員会、記念事業策定実行委員会の三委員会を設置します。記念事業については、学生寮、新病院、新学部、付属小学校の建設などの構想が挙げられております。結びに、校友会会員の皆様からの変わらぬご助言とご協力を賜りますようお願いいたします。

「多くの人に愛される人間力を」



国際関係学部校友会副会長
国際関係学部同窓会会長

宮下 公雄

校友の皆さまにおかれましては
多方面でご活躍のほどお喜び申し
上げます。国際関係学部国際関係
学科一期卒業の宮下公雄と申し
ます。国際関係学部校友会も、相
田信次校友会会長諸先輩のご尽
力により、活躍の場を他学部同窓
会との交流へと大きく移しており
ます。三島同窓会から歴史と伝統
を築き大きく発展させてくださる
諸先輩方には心より感謝申し上げ
ます。

また、東日本大震災で被災され
た校友の皆さま、ご家族が被災さ
れた皆様には心より御見舞い申し
上げます。

今年の三月二十五日、震災直後
の謝恩会も中止に成りかねないと
ころを学生有志の皆様のご尽力で
開催されました。

そのひとコマで、終戦直後に入学
された西村様から、「その当時、女
子学生は数えるほどしかいなかった
からもうたと思うでしょう？」と
思わぬユーモア溢れる言葉、会場の
中は、大変暖かい雰囲気につつま

ました。期待に反して「そんな事な
かったわ、その当時はみんな生きる
のが精一杯だったから」私にとつて
は大変に新鮮で、失礼ですが八十
歳を超えて今も青春を謳歌され
る西村様に流石だなと感銘を受け
ました。

一九七九年にスタートしました
国際関係学部、国際関係学科と国
際文化学科の二学科で始まりまし
た。時代の移り変わりと共に、さら
に現在の国際交流学科、国際ビジ
ネス情報学科が創設され、本年か
ら、国際総合政策学科、国際教養
学科に統合し、より外部からもシ
ンプルで解りやすい、時代が必要と
する人材育成の場へと変化し続け
ています。

世の中も大きく移り変わり、
我々が学生の頃にはなかったモバ
イルコンピュータも、時代の主役と大
きく変化をして来ております。

最近、南極観測隊の人材育成を
されておる先輩のお話を聞く事が
出来ました。

話の中で有名料亭の調理人に南

極観測隊の料理長をしていただ
い、返って調理が高級すぎて隊
員の口に合わなかったとエピソードや、
南極観測隊でも現在では、それぞ
れ個々に個室があり休みの時間は
ほとんど部屋でDVDやインター
ネットを見て過ごしている事、観測
船が、宗谷、富士、初代しらせ、し
らせ二号と、新しくなっているが、パ
ブル期に建造された初代のしらせ
が木をふんだんに使った豪華で一
番贅沢で良かった話など中々聞け
ない話を楽しく聞くことが出来ま
した。

ひとつだけ残念に思ったのは、一
年間に七十人しかいけないう大変狭
き門の隊員に、部署によっては応募
がまったくなく、重機オペレーター
など、隊員の所得と現在の日本での
所得とミスマッチなことから募集し
ても中々集まらないという話でし
た。すべての物に満たされ続けた日
本、物余り日本、燃えない日本を、
象徴する話でした。今回の、東日本
大震災も、日本人の原点回帰を警
鐘しているかもしれません。

新設された国際総合政策学科、
国際教養学科の皆さん、時代の必
要とするバランス感覚のすぐれた
人間力を身に着けるようチャレン
ジし続けてください。これからの時
代全てにわたるスピードが第一で
すが、特に今一番私が大切に思う
のは、多くの方に愛される人間力
だと思ひます。西村様の人間力は
本当に素晴らしいと思うのですが、

「学生達との触れ合いの中で」



国際関係学部校友会副会長
桜文会会長

山田 浩子

二周以上上年上の人との人間関
係、また自分が将来五十歳六十歳
になった時に二周り下の人に愛さ
れる人間力を身に着けてくださ
い。一周りまでの人間関係は、よく
有りますが二周りになると中々難
しいものです。語学が得意な皆様
には、年配の方と日本語で話をす
るほうが苦手かもしれませんが、
どうか学生の皆様も、卒業して
十年、二十年たつて企業の最先端で

働いている皆様も学生時代に培っ
たスキルを整理する上でも国際関
係学部の校友会、昨年度は三島で
国際関係学部校友会と合同開催、
本年度は東京開催になります。同
窓会を、自分磨きの場として大い
に活用して頂きたいと思ひます。こ
れからも国際関係学部校友会に
皆様のご支援をお願いいたします。

校友の皆さまが日本ばかりでな
く世界の色々な処で活躍され、ま
すます世界の日本大学となつてい
るさまに誇りを感じております。

私は短期大学部文科英文専攻
の第一期生として入学させていただきました。
昭和四十二年四月に開
校しました英文と国文の二科ができ、
女性ばかりの楽しい学舎でした。
親学科なので学校の期待も大き
く、かなり甘やかされ教授陣も、ど
うしたらいいか手さぐりの状態だっ

たのではなかったかと思ひます。いつ
の頃からか文科が文学科になり、
どこの大学にも、短期大学部があ
り短期大学が華やかになりし時代で
した。しかし時代と共に専門性
のない短大はあまり必要とされなく
なり平成十三年三月に閉校となり
ました。その間に国際関係学部が
でき、お陰さまで同窓会も、その中
に入っていただき今は学科がなく
になりましたけど、活動ができるよ
うになつております。女性たちが

多い仲間ですが、飲み会、旅行と人生はまだまだこれからだと頑張っております。

数年前から大学に頼まれ、国際関係学部の学生に特殊講義を週一回させていただいております。今年度はお休みさせていただきました。なぜなら今の学生は少子化のせいでしょ、か、人生前向きに何でもトライしようという気が余りなく、とても慎重な学生が多いような気がします。私の講義は「もし自分で商売するのなら何をどのようにする。どうしたら利益が出せる。」というような事です。最初の講義の学生達は、とても前向きでした。実際に校内で仕事をしてみようかと投げかけました。色々な仕事が出ました。最後に小学生の四年生以上で両親が仕事をしている子供達を五時まで預る事にしました。その時の学生の言った言葉に感動しました。大学の中って、なかなか入りにくい所なので小学生を預ければ子供や親達も入りやすくなる。これからは少子化だから小学生のころから親も含めて日大のファンを作っておけば学校の将来のためになる。そして三島市も巻きこんでいっしょにやっつこうという事になりました。大学に許してもらって為に奔走しました。部屋がない子供達に事故があったらどうするんだ等々、ネガティブな事はばかりでした。でも学生の根性でどうとう記念館を借していただき「キッ

ズクラブ」と名付けました。国際関係学部なんだから英会話の時間を作り、それを売りにしようという夢は膨らむばかりでした。学生は空時間を使い東奔西走して、とうとうキッズクラブの開校となりました。当日はテレビ局の取材で夕方のニュースに取り上げられ数ヶ月後にはキッズクラブの中で遊んでいる様

子も放映されました。二三年で終わるだろうと大学は思っていたようですが、今だに続いています。年度末の六年生の卒業パーティーには初代の頃からの社会人になった元学生達も参加してくれました。学生達との、こんな付き合いの続く私はこの上ない幸せを感じております。

「五十二年めの桜栄会」



国際関係学部校友会副会長
桜栄会会長
浅田義志子

校友会の皆様こんにちは。私は、今は家政科六期卒の桜栄会の浅田です。

昨年は学科創設五十周年を記念して、学科と桜栄会が協力して五十周年記念行事が開催されました。その後祝賀会は催しものや出店があり盛大な会となりました。約百九十名の桜栄会員、国際関係学部長はじめ、恩師の先生方、国際関係学部校友会からの来賓や一般の来賓をお迎えしたいへんにぎやかでした。昭和三十五年に桜栄科として

スタートしました。一期の方々は桜栄士問題でたいへんな時を過ごされました。その後家政科とか生活文化学科と名称は変わりました。そこには家政専攻と食物栄養専攻のふたつのコースがありました。平成十一年で生活文化専攻が終了しました。平成十二年に専攻科が誕生しました。平成十四年から食物栄養科となり現在に至っています。桜栄会員も一万余名の仲間を輩出してきました。このことは歴史の重みを感じずにはいられ

ません。

今年七月に五十一回の総会を開きました。総会が終わると次の総会の当番期の方々が次回にむけて活動がはじまります。毎年発行している桜栄会報の担当の人は編集からはいりません。出来あがった会報と総会案内状を桜栄会員に発送します。総会、懇親会の担当は出欠席を把握して前から準備や当日の司会などを中心となってやってくれます。しかし当番期の方々は何回も集まり、みんなできくみます。今年の総会の折の講演の演題を書いてくださったのは四期卒の九十才に近いおかさまでした。とても力強い一字、一字で書かれていました。このように桜栄会をもちあげようがんばっています。

校友会の皆様どうぞやさしく桜栄会をこれからも導いていただくさることをお願い致します。校友会の皆様のご健勝をお祈りいたします

校友会優秀賞受賞者



国際文化学科三年
ガンドウベンジャミン

日本大学に入学して一年目は、日本の文化や言語など母国ケニアとは違うところが多すぎて慣れるのが大変だった。初めて食べた日本食は口に合わず、思わず吐いてしまったりしたが、今では普通に食べられるようになった。

まず、日本に陸上留学という形で来て、日本大学三人目のケニア留学生になったことを嬉しく思い誇りに思う。

日本での生活は、最初はチームメイトとも言葉が通じず、なかなかコミュニケーションを取ることができなくて大変だった。学年が三つ上だったダニエルが居てくれたため、日本の生活や練習に慣れていくことができたと思う。練習に関してもケニアでやっていた練習とは全く異なっていて、一度に二十キロや三十キロを走るメニューが出たときはとても驚いた。しかし、そんなときもダニエルが居てくれたから良い練習パートナー、そして良い目標として掲げ、頑張ることができた。

一年目の試合は、「関東インカレ」

学祖・山田顯義をテーマに
国際関係学部長が小説執筆

ある日本経済学校の設立に尽力した明治の偉人である、佐藤三郎(1875-1951)は、山田顯義(1875-1951)の著書「山田顯義」(1951)を基に、小説「山田顯義」(2018)を執筆した。山田顯義は、明治時代の政治家、実業家、教育者として活躍した。本書では、山田顯義の生涯と業績を、小説という形式で紹介している。

山田顯義の生涯と業績を、小説という形式で紹介している。

「全日本インカレ」「出雲駅伝」「全日本大学駅伝」に出場した。トラック競技のインカレでは入賞することとはできなかったが日本人選手や他の大学のケニア人留学生に負けてしまいい悔しかった。

駅伝デビュー戦となった出雲駅伝では区で区間三位、個人順位では納得いかなかったがチームは優勝し、それに貢献できたので良かった。次の全日本大学駅伝では、個人でも区間賞、チームも優勝ととても嬉しいレースだった。「箱根駅伝」は私は走ることができなかったが「来年はチームに貢献できるように頑張ろう。」と思った。

二年生でも両方のインカレに出場した。どちらも五十メートルでうまくいかなかったが二万メートルで優勝することができた。これもチームメイトやコーチ、先生などいろいろな人達のおかげだと思う。駅伝では、箱根駅伝のシード権を落としてしまったため、出雲駅伝には出場せず箱根駅伝予選会に出場した。結果は、個人二位でチームも箱根駅伝への出場権を獲得することができた。二度目の全日本大学駅伝では、シード落ちしそうだったチームを四位まで上げ、区間賞とシード権を取ることができた。箱根駅伝では個人二位で走ることができたがチームに貢献する走りでは

きなかった。来年はリベンジをしたい。

これまで、日本に住んできて私はいろんな人に支えられて生きていると思った。ケニアにいる家族、日本でのチームメイトやコーチ、他の大学や会社のケニア人達。これからも支えられた分良い走りをして恩返しをしていきたいと思う。

各学生団体代表者

「学生会CSA」



国際交流学科四年

佐久間 仁輝

私はこの大学にどういう意志を持って入学してきたのでしょうか？その答えは、私は高校時代まで、ラボ国際交流センターが管理する中で運営されている、福島県郡山市のラボ山ノ井パーティーに所属していました。そこで、高校一年生の夏休みに初めて外国の地を一カ月、ホームステイしたことが入学のきっかけになりました。そして、その経験を通

通して、国際交流の素晴らしさ、英語で会話することの素晴らしさなどを強く感じて、このような学問を学べるところを探してみたいと着いたのが、この大学、学部でした。今では、この大学、学部を選んで、本当に良かったと改めて感じました。

そんな絶好の大学で、私は「大学生活で学生の皆さんに対して、新しい学生生活を送ってほしいために、何か役に立つことがしたい。」「自分の学生生活を本当に楽しくて、輝いていける四年間にしたい。」などのような思いで、学生会CSAに所属しました。初めの一年は、多くの先輩に見守られながら、二年間の活動を楽しく有意義に過ごしながら頑張ることができました。特に、一年生の後期からは、積極的に何かの担当責任者に進んでやるようになり、そして、この積極的に物事に取り組むことは、二年の時にさらに強まってきました。それは、二年時に会計を務めながら、富桜祭ではゼミナール展示発表の責任者など多くの役職を任せられた。また、三年の時には委員長という大役に、富桜祭ではゼミナール対抗イベント大会の責任者など、三年目も二年目の時と変わらず、色々な大役をやり、頑張つてまいりました。

これらの大役は、楽しいこともありますが、辛いことも多く、ときには何度も「自分はどうだめだ。」と諦めたことがありました。しかし、そんな時、多くの友人、先輩、後輩、教職員の方々などに支えられて、乗り越えられて、頑張ることができました。本当に支えてくれた全ての人々に感謝します。本当にありがとうございました。

最後になりますが、私は、多くの方々に支えられたおかげで、四年まで楽しい学生生活を送ることができました。本当に私にはかけがえない人々に出会うことができたと思います。これからは、そんな人々を忘れず、自分自身の将来に悔いのないように過ごしていきたいと思っています。

「体育会」



国際文化学科四年

張替 祐介

大学生活も終わりに近づき、日々多くの想いが溢れてきます。

種々の活動をしてきた中で、自分の心の成長が出来た素晴らしい多くの経験をさせて頂けたことに感謝しています。

入学し、高校から続けていたソフトテニス部に入学した自分は、最初に高校と大学の部活動の違いの差に戸惑うことが多々ありました。技術的な物はもちろん、意識的な違い、この中で自分が求めるテニスが出来るのか、考え出た答えは、自ら動くことでした。今までは監督、コーチの中で決められていた事をして来たが、大学では自分で考え、行動する。正直な所、入学までの十八年自分に甘い生き方をしてきました。そんな自分を社会に出る前に変えなくてはならない、それは今なのではないか、上に立つようになり、自分はもちろん部活をまとめなくてはならないと厳しく取り組み、部員と揉めた事もありましたが、結果的にオール日大優勝など素晴らしい最後を向えることが出来本当に良かった部活動になったと考えています。

次に大学生活とは多くの友を見つけ、つながりというものを強く学ぶ事のできる場所であったとも感じています。ソフトテニス部、体育会はもちろん、学内、学外多くのつながりの中で様々な経験をさせて頂きとても勉強になりました。卒業

と共にもう会う事が出来ない友もいるでしょう。しかし、この学生生活で出会った友を自分は忘れることはないでしょう。これからも続く長い人生の中ではたつた四年でも、この四年間の思い出は本当に素晴らしいものであったと感じています。

最後に、大学生活で自分を支えてくれた教職員の方々、ソフトテニスのメンバー、体育会役員、各委員会、部活動の皆さま、多くの友に感謝しています。ありがとうございました。

「文化会」



国際ビジネス情報学科四年

橋本 康弘

国際関係学部として日本で最初に創立された本学部「日本大学国際関係学部」。重厚な歴史を持つ大学の「一員になること」に対し期待と不安を抱きながら本学部の門を潜り、早いもので三年以上もの月日が流れました。最近では友人との会話も自然とこれまでの思い出話にふけるようになり、懐かしく思

うと同時に少し寂しい気持ちにもなります。そういった会話を交わしていくにつれ感じたことは私にとって国際関係学部で過ごした学生生活は常に新しい発見、勉強の連続で、私自身を人間的に大きく成長させてくれました。

私は本学部に入學するまで、スポーツに打ち込み、高校では全国的にも有名なスポーツ強豪校のアメリカンフットボール部に所属し、当時は、まるで絵に描いたような体育会系の世界しか知らない人間でした。だからこそ私は入學時に「沢山の

人々と触れ合いながら社会に活かせるような知識を蓄える。そして、私自身の価値観や視野を広げていきたい。」という一つの目標を掲げました。幸運にも本学部にはこの目標を達成するための絶好の環境が整っていました。本学部は高校のように地元民だけではなく様々な場所から学生が集まっています。また留学制度も整い、他国からの留学生もたくさん在籍し、国境や人種は「切関係ありません。私はこの環境を最大限に活かすため、これまで部活サークルゼミナール留学と幅広く活動してきました。

最初は馴染んでいくことに多少戸惑いもありましたが、仲間達と議論を交わしたり、大きな物事を作り上げているうちに、私自身の価値観が変わっていく、見聞も広がるようになりました。特に文化会執行部の部長として部をまとめあげながら学内イベントを成功裏に導いた経験は印象に残っています。今まで経験したことのない裏方、そしてリーダーとして部や文化系団体をまとめ、学内最大のイベントである第六十回富桜祭を成功させることができたのは今でも大きな自信となっています。

これまで学内外問わず出会った人々との交流は私にとってまさに成長の場でした。しかし、これに満足することなく常に目的意識を持ちながら、残りの日々を大切にしていきたいと考えています。最後にこれまで私の学生生活をサポートしていただいた教職員の方々、そして地域住民の方々にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

「富桜会」



国際交流学科四年

山下 昌志

「迷ったら前に進め」怒涛のよう

に過ぎ去った学生生活も残すところあと半年となった。高校、大学と併せると七年間「自主創造」の旗印の下、勉学に励んできた。

思い返せばすべて決断の連続だった。大学での生活というものは、これまで経てきた中学校、高校と違い、人生におけるすべての決定権が自分自身に存在した。当初はこの自由度の高さをはき違え、友人たちと遊びに明け暮れる日々で、親に非常に迷惑をかけたように思う。

人生、出会いには全て運とタイミング。私の大学生活は、二本の大きな柱によって支えられていた。

一つはゼミ活動である。戦前の日本の植民地、主にサイパンについて学ぶ私のゼミは、国際交流やフィールドワークが活発で、アジア各国からの学生と机を並べたり、ヨーロッパの留学生たちとアルバイト事情やファッションについての議論をしたこともあった。

三年時の国際交流学科、フィールドワーク結果報告会では、仲間たちとパワーポイントの制作や、打ち合わせを重ね、「サイパン・沖縄。二つの島の物語」と題し学生に問題提起をする事が出来た。ゼミナールの担当教官は、大学生活において、自分にとって母親のような存在だったように思う。時には厳しく、温かく指導してくださった。「自分

の詰めの甘さ」を指摘し、叱つくれる存在は私にとって大きく、この出会いがなければ今の文章はかいていないだろう。そして現在、卒業論文の執筆活動に精を出している。これが一つの柱である。

もう一つの柱は、学園祭実行委員会との出会いである。新入生の登校日の折、偶然もたらした部員募集の紙に電話した事から私の人生は変わった。学園祭ひとつにしても地域、学生、教授、職員など様々な人間が関わってくる中で、ベクトルを一つに向ける事は並大抵の事ではない。一学生としての自分、一学園祭実行委員長の立場としての自分、その中で学んだことは「何事にも感謝の気持ち忘れず常に誠意で取り組む」事だ。

大学生活は自由度が高い。これをはき違えなければ、私たちは無限の可能性を持っていた。どうか、まだ大学生活が残っているみなさんにはぜひ、自由について考えてほしいと思う。

大学生活は、実は楽しく、深い。最後に、これに関わった全ての人々にこの場を借りて心からの感謝の気持ち伝えたい。本当にありがとうございました。

平成 22 年度 事 業 報 告

- 1 国際関係学部校友会会長賞等授与
平成22年度日本大学国際関係学部及び短期大学部(三島校舎)在学生から、次のものが国際関係学部長から推薦された。
・校友会会長賞(副賞:奨励金)は、国際関係学部4名に贈られ平成23年3月25日の卒業伝達式当日、グランドプリンスホテル新高輪において授与式が行われた。
・校友会優秀賞(副賞:奨励金)は、国際関係学部1名及び短期大学部2名に贈られ平成23年3月25日の卒業伝達式当日、グランドプリンスホテル新高輪において授与式が行われた。
・校友会優秀賞(副賞:奨励金)は、国際関係学部1名に贈られ平成23年4月4日開講式当日授与式が行われた。
- ①校友会会長賞(副賞:奨励金)
広瀬 公彦(国際関係学科4年) 久保田真未(国際関係学科4年)
佐川 彩子(国際関係学科4年) 御所園智仁(国際ビジネス情報学科4年)
- ②校友会優秀賞(副賞:奨励金)
阿部 裕樹(国際文化学科4年) 山下 あゆ(専攻科食物栄養専攻2年)
清水 祥子(食物栄養学科2年)
- ③校友会優秀賞(副賞:奨励金)
ガンツ・ベンジャミン(国際文化学科2年)
- 1 日大スポーツ 1,400部を平成23年4月国際関係部・短期大学部(三島)各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。
- 1 会報41号を平成22年9月1日付け18頁3,200部を発行した。
- 1 各科同窓会等補助
①国際同窓会・桜葉会名簿作成に対する補助 ②大学の体育会に対する補助
③箱根駅伝応援に対する補助 ④伊豆マラソン大会応援に対する補助
⑤全日本大学女子駅伝対校選手権大会応援に対する補助
- 1 常任幹事会
平成22年7月10日(土) 16時から、日本大学国際関係学部校舎15号館2階において開催した。
- 1 幹事会
平成22年7月10日(土) 17時30分、日本大学国際関係学部校舎15号館2階において開催した。
- 1 総会並びに懇親会
平成22年8月21日(土) 16時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催した。
- 1 国際校友会公式WEBサイト開設
平成22年4月から公式WEBサイト(ホームページ)に年間5回渡り校友会行事を写真として更新しました。
- 1 全日本大学女子駅伝応援
平成22年10月24日(日) 仙台市陸上競技場スタート応援地点及び仙台市役所前ゴール応援地点で校友会宮城県支部・県人会と合同で応援した。
- 1 箱根駅伝応援
平成23年1月3日(月) 復路スタート応援地点で応援した。また、平成23年1月2日(往路)3日(復路)の両日、国際関係学部体育会ダンス部・文化会吹奏楽部が箱根で応援に花を添えた。
- 1 伊豆マラソン大会応援
平成23年2月20日(日) 修善寺駅北口スタート応援地点及び三島市役所別館ゴール応援地点で国際関係学部体育会ダンス部・文化会吹奏楽部と応援した。

平成 22 年度 収 支 決 算 書 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日) (単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
奨 学 費	630,000	860,000	△ 230,000	会 費 収 入	15,137,000	14,667,000	470,000
日大スポーツ購入費	420,000	450,000	△ 30,000	雑 収 入	496,203	540,118	△ 43,915
校友会報発行費	250,000	228,900	21,100				
各科同窓会等補助	2,000,000	1,900,000	100,000				
学生団体補助	1,500,000	460,000	1,040,000				
総会並びに懇親会費	800,000	1,081,866	△ 281,866				
箱根駅伝応援補助	500,000	1,111,800	△ 611,800				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
卒業記念品費	3,300,000	2,854,500	445,500				
会議会場費	500,000	287,550	212,450				
通信運搬費	250,000	233,906	16,094				
ホームページ運営費	200,000	0	200,000				
事務費	700,000	917,318	△ 217,318				
雑費	700,000	863,620	△ 163,620				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	0	680,000	△ 680,000				
予 備 費	100,000	0	100,000				
計	12,320,000	12,399,460	△ 79,460	計	15,633,203	15,207,118	426,085
基金繰入額	0	1,230,000	△ 1,230,000	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金(繰越金)	21,188,739	19,453,194	1,735,545	前年度繰越金	17,875,536	17,875,536	0
支出の部合計	33,508,739	33,082,654	426,085	収入の部合計	33,508,739	33,082,654	426,085

貸 借 対 照 表 (平成 22 年 3 月 31 日現在) (単位:円)

借 方			貸 方		
項 目	金 額		項 目	金 額	
普 通 預 金	34,453,194		基 金	16,230,000	
定 期 預 金	1,230,000		前年度繰越金	15,000,000	
			本年度繰入金	1,230,000	
			本年度繰出額	0	
			次年度繰越金	19,453,194	
			未払金	0	
			前受金	19,453,194	
合 計	35,683,194		合 計	35,683,194	

基 金 の 内 訳 (単位:円)

項 目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	合 計
基 金	15,000,000	1,230,000	0	16,230,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	5,000,000	410,000	0	5,410,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	5,000,000	410,000	0	5,410,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	5,000,000	410,000	0	5,410,000
計	15,000,000	1,230,000	0	16,230,000

平成 22 年度収入について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしました。記帳その他正確であることを認めます。

平成 23 年 5 月 10 日

会計監査 柴 谷 徳 昭 印
宮 川 守 郎 印
藤 本 文 彦 印

平成23年度事業計画

- 1 国際関係学部校友会会長賞等授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）
 日本大学国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）を平成23年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。
 ・校友会会長賞並びに奨励金 国際関係学部 4年卒業予定者 4名
 ・校友会優秀賞並びに奨励金 国際関係学部 4年卒業予定者 3名
 短期大学部（専攻科含む） 2年卒業予定者 3名
 ・校友会会長賞並びに奨学金 国際関係学部 2・3年在学生 3名
 短期大学部（専攻科含む） 1年在学生 3名
- 1 日大スポーツ10
 1,100部を平成23年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡す。
- 1 会報発行
 会報42号（平成23年9月1日付）18頁3,200部。
- 1 各科同窓会等補助
 ①各科同窓会名簿作成の推進に対する補助。
 ②大学体育会・文化会に対する補助。
 ③箱根駅伝応援に対する補助。
 ④伊豆マラソン大会応援に対する補助。
 ⑤全日本大学女子駅伝対校選手権大会応援に対する補助。
- 1 常任幹事会
 平成23年6月25日（土）16時から、パステリア地中海3階において開催する。
- 1 幹事会
 平成23年6月25日（土）17時から、パステリア地中海3階において開催する。
- 1 総会並びに懇親会
 平成23年7月23日（土）16時から、みしまプラザホテルにおいて開催する。
- 1 国際校友会公式WEBサイト更新
- 1 全日本大学女子駅伝応援
 平成23年10月23日（日）仙台市陸上競技場スタート応援地点及び仙台市役所前ゴール応援地点で応援する。
- 1 箱根駅伝応援
 平成24年1月3日（火）復路スタート応援地点で応援する。また、平成24年1月2日（月）往路ゴール応援地点及び平成24年1月3日（火）復路スタート応援地点で国際関係学部体育会所属ダンス部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。
- 1 伊豆マラソン大会応援
 平成24年2月19日（日）修善寺駅北口スタート応援地点及び三島市役所別館ゴール応援地点で国際関係学部体育会所属ダンス部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。

平成23年度収支予算書（平成23年4月1日～平成24年3月31日）（単位：円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	600,000	630,000	△ 30,000	会 費 収 入	14,943,000	15,137,000	△ 194,000
日大スポーツ購入費	420,000	420,000	0	雑 収 入	540,000	496,203	43,797
校友会会報発行費	250,000	250,000	0				
各科同窓会等補助	500,000	2,000,000	△ 1,500,000				
学生団体補助	1,000,000	1,500,000	△ 500,000				
総会並びに懇親会費	1,080,000	800,000	280,000				
箱根駅伝応援補助	1,000,000	500,000	500,000				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
卒業記念品費	2,500,000	3,300,000	△ 800,000				
会議会合費	400,000	500,000	△ 100,000				
通信運搬費	250,000	250,000	0				
ホームページ運営費	300,000	200,000	100,000				
事務費	800,000	700,000	100,000				
会員名簿作成管理費	1,500,000	0	1,500,000				
雑 費	800,000	700,000	100,000				
国際関係学部校友会奨励金支援基金	500,000	0	500,000				
予 備 費	100,000	100,000	0				
計	12,470,000	12,320,000	150,000	計	15,483,000	15,633,203	△ 150,203
基金繰入額	600,000	0	600,000	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	21,866,194	21,188,739	677,455	前年度繰越金	19,453,194	17,875,536	1,577,658
（繰越金）	21,866,194	21,188,739					
支出の部合計	34,936,194	33,508,739	1,427,455	収入の部合計	34,936,194	33,508,739	1,427,455

基金の内訳

（単位：円）

項 目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	合 計
基 金	16,230,000	600,000	0	16,830,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	5,410,000	200,000	0	5,610,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	5,410,000	200,000	0	5,610,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	5,410,000	200,000	0	5,610,000
計	16,230,000	600,000	0	16,830,000

平成 23 年度役員

任期(H21.4.1～H24.3.31)

役職氏名(在学年度)	
教養	
幹事	石川 進(25・26)
幹事	長倉 祐作(25・26)
幹事	宮崎 茂樹(25・26)
幹事	光 信 僖(26・27)
幹事	浅原 好胤(26・27)
幹事	高橋 英明(26・27)
幹事	荒川 通(26・27)
幹事	塩田 浩(26・27)
幹事	大井 徹也(26・27)
幹事	稲葉 昭(26・27)
幹事	熊崎 文二(26・27)
幹事	奥水 啓一(26・27)
幹事	廣田 均(26・27)
幹事	栗原 恒夫(26・27)
幹事	後藤 守雄(26・27)
幹事	黒滝 祐司(27・28)
幹事	小林 義尚(27・28)
幹事	田村 栄一(27・28)
幹事	関本文彦(27・28)
幹事	真部 喜孝(27・28)
幹事	結城 勇一(27・28)
幹事	長沢 龍助(27・28)
幹事	佐々木 凱男(27・28)
幹事	川崎 一成(27・28)
幹事	丸山 富美男(28)
幹事	坂詰 正衛(28・29)
幹事	望月 知林(28・29)
幹事	安東 安生(29・30)
幹事	寺崎 哲郎(29・30)
幹事	関 哲男(29・30)
幹事	林田 達郎(29・30)
幹事	森 伸夫(30・31)
幹事	道見 俊廣(30・31)
幹事	小野 武(30・31)
幹事	馬場 妙子(30・31)
幹事	屋鋪 公平(30・31)
幹事	堀 幸男(30・31)
幹事	根岸 元宏(31・32)
幹事	渡部 浩司(31・32)
幹事	大村 日出雄(32)
幹事	甲田 知由(33)
幹事	吉野 洋一(35)
幹事	鈴木 肇(35)
幹事	御供 政紀(35・36)
幹事	小澤 文郎(36)

役職氏名(在学年度)	
会長	相田 信次(44・45)
副会長	宮下 公雄(54～57)
副会長	横山 雅人(56～59)
副会長	濱田 義之(45)
副会長	山田 浩子(41・42)
副会長	江本 博勝(46・47)
副会長	浅田 義志子(39・40)
副会長	弓場 重明(44・45)
幹事長	田中 由雄(42・43)
常任幹事	関野 幹雄(48・49)
常任幹事	関野 浩二(57～60)
常任幹事	山瀬 匠(08・09)
常任幹事	瀬川 晶子(52・53)
常任幹事	田村 実(26・27)
常任幹事	鈴木 義樹(28・29)
常任幹事	市川 紀子(35・36)
常任幹事	染谷 徳昭(42・43)
常任幹事	土屋 貞明(42・43)
常任幹事	林田 孝二(43)
常任幹事	山口 良児(43・44)
常任幹事	平岩 美知子(44・45)
常任幹事	久保田 博明(45・46)
常任幹事	遠藤 晶子(45・46)
常任幹事	西野 和衛(46・47)
常任幹事	瀬川 宏(47・48)
常任幹事	神戸 絹代(47・48)
常任幹事	鈴木 允(48)
常任幹事	大島 裕二(52・53)
常任幹事	露木 ひろみ(53・54)
常任幹事	斎藤 聡(54～57)
常任幹事	柳川 浩昭(54～57)
常任幹事	高野 真一(54～57)
常任幹事	松原 裕二(54～57)
常任幹事	小松 徳弘(56～59)
常任幹事	高野 誠(57～60)
常任幹事	山本 宏治(57～60)
常任幹事	勝又 義博(57～60)
常任幹事	野田 正人(62・63)
常任幹事	久保 和之(63・01)
常任幹事	廣岡 達郎(01～04)
常任幹事	齋藤 実(01～04)
常任幹事	藤澤 博隆(03・04)
常任幹事	明石 浩一(05～09)
常任幹事	渡邊 孝哉(09・10)
会計監査	宮川 守(47・48)
会計監査	藤本 文彦(52・53)

役職氏名(在学年度)	
顧問	小椋 貞夫(28・29)
顧問	石川 貞夫(28・29)
顧問	角田 義廣(30・31)
顧問	平井 千枝(34・35)
顧問	高田 菊平(36)
顧問	柴田 正(41・42)
顧問	小早川 隆義(42・43)
参与	渡辺 洋子(35・36)
参与	岩崎 一雄(43・44)
参与	金井 美智子(38・39)

公式WEBサイト



URL <http://www.nu-ir-koyukai.jp/>

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事		今川高宏 (04-05)
幹事		町野智彦 (05-06)
幹事		池田昌史 (08-09)
幹事		成田伸行 (08-09)
桜栄会		
幹事		山口玲子 (34-35)
幹事		阿部麻子 (35-36)
幹事		木崎有里子 (35-36)
幹事		渡辺かよ子 (35-36)
幹事		板垣和代 (36-37)
幹事		佐野茂子 (36-37)
幹事		小泉陽子 (36-37)
幹事		中村満里子 (37-38)
幹事		川口裕子 (37-38)
幹事		米山日出子 (37-38)
幹事		小坂照子 (38-39)
幹事		塩谷まさよ (38-39)
幹事		井原康恵 (38-39)
幹事		望月千登世 (38-39)
幹事		秋山幸子 (39-40)
幹事		関口 瑞 (39-40)
幹事		福尾つや子 (39-40)
幹事		神部文子 (39-40)
幹事		高橋美鶴 (40-41)
幹事		伊達伸子 (40-41)
幹事		石黒榮美子 (41-42)
幹事		鳥羽山資子 (41-42)
幹事		秋山悦子 (41-42)
幹事		渡辺あき子 (41-42)
幹事		嶋 美也子 (41-42)
幹事		伊 藝 睦 (41-42)
幹事		駿藤春代 (42-43)
幹事		石原泰代 (42-43)
幹事		篠田光代 (42-43)
幹事		影山貴美枝 (43-44)
幹事		土屋時子 (43-44)
幹事		柴田敬子 (44-45)
幹事		川村千代子 (45-46)
幹事		辻 緑 (45-46)
幹事		小林秀実 (45-46)
幹事		鈴木清美 (46-47)
幹事		佐藤奈津美 (47-48)
幹事		鈴木佳津江 (47-48)
幹事		神田みつ子 (47-48)
幹事		勝又昌代 (48-49)
幹事		原 康子 (48-49)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事		秋山稔明 (46-47)
幹事		前田正丈 (47-48)
幹事		野田 栄 (47-48)
幹事		多田清吾 (47-48)
幹事		辻本真由美 (51-52)
幹事		濱田順二 (53-54)
幹事		吉川浩司 (54-55)
幹事		後藤幸江 (58-59)
幹事		齋藤みどり (59-60)
幹事		長澤裕子 (59-60)
幹事		中村由美子 (61-62)
幹事		南 まり子 (03-04)
幹事		小池恭子 (04-05)
幹事		白川美保 (05-06)
幹事		小柴慶子 (06-07)
幹事		勝又美咲 (16-17)
商経・二部		
幹事		村山 要 (30-31)
幹事		杉山敏明 (34-35)
幹事		渡辺 勝 (38-39)
幹事		久保田 勝 (38-39)
幹事		佐野勝己 (39-40)
幹事		勝谷哲雄 (40-41)
幹事		土屋忠得 (40-41)
幹事		鈴木正八 (44-45)
幹事		津田正克 (50-51)
幹事		甲斐幸博 (51-52)
幹事		甲斐忠則 (51-52)
幹事		後藤善夫 (52-53)
幹事		加藤喜章 (53-54)
幹事		鈴木理平 (54-55)
幹事		内野祥司 (55-56)
幹事		守野敏也 (55-56)
幹事		山田 良 (55-56)
幹事		杉山勝行 (57-58)
幹事		黒田文量 (59-60)
幹事		金城三十二 (59-60)
幹事		武井直子 (60-61)
幹事		土佐谷泰子 (61-62)
幹事		田伏正和 (01-02)
幹事		名雪しげみ (01-02)
幹事		菅江 稔 (02-03)
幹事		明石知恵美 (02-03)
幹事		川原浩貴 (03-04)
幹事		小野和彦 (03-04)
幹事		坂口聖剛 (03-04)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事		大西良雄 (37)
幹事		小川武司 (37)
幹事		多田清太郎 (37)
幹事		坂口正剛 (37)
幹事		小石川宣照 (37)
幹事		遠藤日出夫 (37)
幹事		渡辺博夫 (37)
幹事		栗山康雄 (39)
幹事		杉田朋昭 (39)
幹事		両角 勇 (42)
幹事		江川 洋 (42)
幹事		藤幡俊量 (46)
幹事		高藤省三 (49)
幹事		滝本 博 (53)
桜文会		
幹事		岩崎尚枝 (41-42)
幹事		小永井京子 (43-44)
幹事		高橋真理子 (44-45)
幹事		榎本睦美 (46-47)
幹事		石井千枝子 (45-46)
幹事		松村啓子 (51-52)
幹事		佐野有美 (52-53)
幹事		大塚久子 (52-53)
幹事		武田裕美 (55-56)
幹事		勝亦幾代 (56-57)
幹事		北川早苗 (56-57)
幹事		山崎睦子 (57-58)
幹事		高野直美 (58-59)
幹事		阿部昭子 (59-60)
幹事		神田留美子 (60-61)
幹事		白石 忍 (63-1)
幹事		渡邊陽子 (01-02)
幹事		高鹿真弓 (03-04)
幹事		片柳容子 (03-04)
幹事		秋山陽子 (04-05)
幹事		古屋美帆 (06-07)
幹事		山崎幸恵 (08-09)
幹事		佐野隆子 (09-10)
幹事		成島敦子 (09-10)
幹事		星 美保子 (10-11)
幹事		工藤美咲 (10-11)
商経・一部		
幹事		萩野谷 肇 (41-42)
幹事		上田定義 (41-42)
幹事		加藤久貴 (46-47)

役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	鈴木 寛子 (06・07)	幹	事	加藤 容子 (59・60)	幹	事	碓井久美子 (49・50)
幹	事	山本 静香 (06・07)	幹	事	藤波 佳乃 (59・60)	幹	事	岩田智加子 (50・51)
幹	事	佐藤 純子 (06・07)	幹	事	藤井由紀子 (59・60)	幹	事	大沼めぐみ (50・51)
幹	事	三須 洋美 (06・07)	幹	事	稲葉 桂子 (60・61)	幹	事	峰田富美子 (51・52)
幹	事	齊藤真由美 (06・07)	幹	事	穂谷野弥生 (60・61)	幹	事	山口智佳子 (51・52)
幹	事	和泉 久美 (07・08)	幹	事	小島みちよ (60・61)	幹	事	堤 令子 (52・53)
幹	事	小野澤美和 (07・08)	幹	事	久保玲華 (61・62)	幹	事	白井 道代 (52・53)
幹	事	小林世以子 (07・08)	幹	事	山下 朋子 (61・62)	幹	事	石橋 治代 (52・53)
幹	事	中林 香子 (07・08)	幹	事	袴田 則子 (61・62)	幹	事	岩崎 美浪 (52・53)
幹	事	水谷 鯉恵 (07・08)	幹	事	鷲尾 貴子 (62・63)	幹	事	竹内 厚子 (52・53)
幹	事	横田 忍 (07・08)	幹	事	田上 順子 (62・63)	幹	事	宮澤 正江 (52・53)
幹	事	中橋 智子 (07・08)	幹	事	山口 美樹 (62・63)	幹	事	遠藤 豊美 (52・53)
幹	事	神戸重里沙 (08・09)	幹	事	大須賀美穂 (62・63)	幹	事	長谷川規子 (52・53)
幹	事	兼房 華 (08・09)	幹	事	櫻田智栄美 (63・01)	幹	事	松川 順子 (52・53)
幹	事	長倉智恵子 (08・09)	幹	事	三宅理砂子 (63・01)	幹	事	松崎 光子 (52・53)
幹	事	大塚 由香 (08・09)	幹	事	野上 香 (63・01)	幹	事	中澤 小雪 (53・54)
幹	事	佐藤 美幸 (08・09)	幹	事	日吉美由紀 (63・01)	幹	事	齋藤 裕子 (53・54)
幹	事	大水 由佳 (09・10)	幹	事	勝俣 千穂 (63・01)	幹	事	長田 智子 (53・54)
幹	事	田村 理絵 (09・10)	幹	事	田村 尚子 (01・02)	幹	事	押見恵美子 (53・54)
幹	事	内田 恵 (09・10)	幹	事	杉村 智恵 (01・02)	幹	事	船石 圭子 (53・54)
幹	事	渡邊 明子 (09・10)	幹	事	湯原 里美 (01・02)	幹	事	四條 里美 (53・54)
幹	事	植野 敦子 (09・10)	幹	事	久保田裕子 (01・02)	幹	事	鷲巣かほる (53・54)
幹	事	佐野 文美 (10・11)	幹	事	市川 智香 (01・02)	幹	事	藤原 和美 (53・54)
幹	事	秋山左知子 (11・12)	幹	事	岡本ゆう子 (02・03)	幹	事	原田 純子 (54・55)
幹	事	鞍本 鮎美 (11・12)	幹	事	大山 妙子 (02・03)	幹	事	池谷美津子 (54・55)
幹	事	尾間 裕仁 (11・12)	幹	事	羽田真理子 (02・03)	幹	事	中澤由利子 (54・55)
幹	事	笠原奈津子 (11・12)	幹	事	望月ゆりか (02・03)	幹	事	佐伯絵里子 (54・55)
幹	事	宮田 朋子 (11・12)	幹	事	安田ひとみ (03・04)	幹	事	伊藤 若菜 (54・55)
幹	事	田角 典子 (12・13)	幹	事	西村 直子 (03・04)	幹	事	吉田麻理子 (54・55)
幹	事	小林 由佳 (12・13)	幹	事	宮本久美子 (03・04)	幹	事	野中 美香 (55・56)
幹	事	赤川 智海 (12・13)	幹	事	渡邊真理子 (03・04)	幹	事	藤田 建江 (55・56)
幹	事	小出 祐子 (12・13)	幹	事	小澤 知子 (03・04)	幹	事	小澤里佳子 (56・57)
幹	事	峯松 園美 (13・14)	幹	事	出口 幸子 (04・05)	幹	事	深津久美子 (56・57)
幹	事	山田 美穂 (13・14)	幹	事	井上 雅代 (04・05)	幹	事	石谷美智子 (56・57)
幹	事	遠藤 友海 (13・14)	幹	事	西岡かおり (04・05)	幹	事	田中 恵子 (57・58)
幹	事	清水磨希子 (13・14)	幹	事	田村 美保 (04・05)	幹	事	嶋 由樹子 (57・58)
幹	事	高橋 由実 (13・14)	幹	事	原田 愛 (04・05)	幹	事	鈴木江利子 (57・58)
幹	事	米永 寿子 (13・14)	幹	事	岩下 志保 (05・06)	幹	事	西田 昭子 (57・58)
幹	事	渡邊 晃子 (13・14)	幹	事	関谷 園子 (05・06)	幹	事	鈴木 敦子 (58・59)
幹	事	岩田 直子 (14・15)	幹	事	渡邊 千史 (05・06)	幹	事	武藤さゆり (58・59)
幹	事	大沼秋桜子 (14・15)	幹	事	川口由美子 (05・06)	幹	事	荻沢 洋子 (58・59)
幹	事	高橋美絵子 (14・15)	幹	事	池谷 尚美 (05・06)	幹	事	平澤佳代子 (58・59)
幹	事	石渡 麻史 (14・15)	幹	事	中村理恵子 (05・06)	幹	事	山田 明子 (58・59)
幹	事	服部 直美 (14・15)	幹	事	遠藤 理愛 (05・06)	幹	事	谷井かほる (58・59)
幹	事	秋山 絵操 (14・15)	幹	事	神尾かほり (05・06)	幹	事	鈴木 佳乃 (58・59)
幹	事	山田真理子 (14・15)	幹	事	遠藤里都美 (06・07)	幹	事	塩崎 朝子 (59・60)

役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	三浦	仁 (57~60)	幹事	青木	裕也 (20・21)	幹事	小野	順子 (14・15)
幹事	横田	正 (57~60)	幹事	小林	可南子 (20・21)	幹事	中村	みずほ (14・15)
幹事	森田	克彦 (58~61)	幹事	石政	未希 (20・21)	幹事	栗田	裕子 (15・16)
幹事	佐上	菊二 (58~61)	幹事	岩井	友紀 (20・21)	幹事	小林	久美 (15・16)
幹事	小塚	敏久 (58~61)	幹事	澤木	心美 (20・21)	幹事	河原崎	朱里 (15・16)
幹事	横溝	泰蔵 (59~62)	幹事	杉本	愛季 (20・21)	幹事	平澤	怜子 (15・16)
幹事	池尻	敏広 (59~62)	幹事	西原	萌恵 (20・21)	幹事	榊原	友希 (15・16)
幹事	山田	竜作 (60~63)	幹事	森山	麻里奈 (20・21)	幹事	田村	美沙子 (15・16)
幹事	土田	洋二 (60~63)	幹事	横山	千恵 (20・21)	幹事	植松	明菜 (15・16)
幹事	桑原	健治 (60~63)	幹事	市川	佳夏子 (20・21)	幹事	荻島	宏予 (15・16)
幹事	渡辺	武一郎 (60~63)	幹事	加藤	あおい (20・21)	幹事	渡邊	裕未 (15・16)
幹事	木俣	かおり (61~01)	幹事	宮下	弘之 (20・21)	幹事	荒井	沙織 (15・16)
幹事	増原	伸一 (61~01)	幹事	青木	萌子 (21・22)	幹事	宇野	浩吏 (16・17)
幹事	犬塚	重暁 (63~03)	幹事	長田	知郁 (21・22)	幹事	星野	成幸 (16・17)
幹事	野口	厚 (63~03)	幹事	清水	遥 (21・22)	幹事	渡邊	尚 (16・17)
幹事	藤田	隆 (63~03)	幹事	時吉	結巳 (21・22)	幹事	鈴木	佳奈子 (16・17)
幹事	佐藤	淳悦 (01~04)	幹事	湯山	菜名 (21・22)	幹事	中西	麻純 (16・17)
幹事	高橋	博樹 (01~04)	幹事	矢田	さき (21・22)	幹事	増島	清美 (16・17)
幹事	長谷川	哲夫 (01~04)	幹事	清水	祥子 (21・22)	幹事	萩原	美香 (16・17)
幹事	村上	東洋男 (01~04)	幹事	小見山	伊代 (21・22)	幹事	平川	綾乃 (16・17)
幹事	須田	啓一郎 (01~04)	幹事	山下	あゆ (21・22)	幹事	綾部	久美子 (16・17)
幹事	原田	恭平 (01~04)	幹事	高村	美帆 (21・22)	幹事	桑山	理沙 (16・17)
幹事	椿	昌寛 (01~04)	工 科			幹事	飯田	泰恵 (17・18)
幹事	南	敦子 (02~05)	幹事	宮下	正俊 (39・40)	幹事	石川	裕里佳 (17・18)
幹事	門脇	正明 (02~05)	幹事	菅沼	弘 (39・40)	幹事	中山	朋美 (17・18)
幹事	藤原	誠吾 (02~05)	幹事	渡辺	清 (42・43)	幹事	田中	沙季 (17・18)
幹事	前田	智也 (02~05)	幹事	赤地	哲也 (42・43)	幹事	堀田	裕貴 (17・18)
幹事	坂井	利彰 (02~05)	幹事	吉田	力 (44・45)	幹事	瀧	智草 (17・18)
幹事	小田	純子 (02~05)	幹事	長倉	良幸 (44・45)	幹事	隅田	優美 (17・18)
幹事	田辺	裕司 (02~05)	幹事	島田	雷太 (44・45)	幹事	岩代	美貴 (18・19)
幹事	田松	正樹 (02~05)	幹事	早川	清文 (45・46)	幹事	加藤	未奈 (18・19)
幹事	西岡	昌仁 (02~05)	幹事	三枝	和彦 (46・47)	幹事	深谷	友香里 (18・19)
幹事	鎌田	文一 (02~05)	幹事	勝間田	太住 (47・48)	幹事	豊田	彩香 (18・19)
幹事	沼尻	正則 (03~06)	幹事	天野	寿一 (48・49)	幹事	野口	明日香 (18・19)
幹事	若松	はるか (03~06)	幹事	上原	豊和 (52・53)	幹事	藤井	里奈 (18・19)
幹事	三宅	大介 (03~06)	幹事	西家	勝彦 (52・53)	幹事	松井	志保美 (18・19)
幹事	清水	建 (03~06)	幹事	桒村	光伸 (53・54)	幹事	萬両	美幸 (18・19)
幹事	小塚	達郎 (03~06)	幹事	勝呂	千明 (53・54)	幹事	福島	健嗣 (18・19)
幹事	紅林	美智子 (03~07)	幹事	鈴木	啓太郎 (54・55)	幹事	村松	海 (18・19)
幹事	佐藤	治夫 (04~07)	国 際			幹事	奥山	亜佐美 (18・19)
幹事	千野	琢磨 (04~07)	幹事	川口	智彦 (54~57)	幹事	富井	映里 (19・20)
幹事	渡辺	将之 (04~07)	幹事	諏訪部	健 (55~58)	幹事	木下	涼平 (19・20)
幹事	杉山	文予 (05~08)	幹事	木村	貴美和 (55~58)	幹事	中安	美咲 (19・20)
幹事	江島	照美 (05~08)	幹事	平野	雅之 (56~59)	幹事	藤井	ゆかり (19・20)
幹事	室伏	寛美 (05~08)	幹事	福田	勝弘 (56~59)	幹事	山本	靖子 (19・20)
幹事	田尻	美三 (05~08)	幹事	宇田	隆康 (56~59)	幹事	三宅	ひとみ (19・20)

役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	鈴木弘明 (16~19)	幹	事	猪狩博織 (11~14)	幹	事	青木 徹 (05~08)
幹	事	竹川光一朗 (16~19)	幹	事	山下政幸 (11~14)	幹	事	大織龍一 (05~08)
幹	事	長谷川 翼 (16~19)	幹	事	中村久美 (11~14)	幹	事	沖倉保宏 (06~09)
幹	事	黒子佳恵 (16~19)	幹	事	鈴木さや夏 (13~14)	幹	事	今川 慶 (06~09)
幹	事	大森未奈子 (16~19)	幹	事	川下知恵 (12~15)	幹	事	田中智康 (06~09)
幹	事	笠倉 諒 (16~19)	幹	事	鹿内華人 (12~15)	幹	事	久芳 仁 (06~09)
幹	事	中山優貴 (17~20)	幹	事	齋藤慎亮 (12~15)	幹	事	植松信二 (06~09)
幹	事	浅井啓悟 (17~20)	幹	事	山本克幸 (12~15)	幹	事	珉 小林寿成 (07~10)
幹	事	芹沢 崇 (17~20)	幹	事	拓植由美子 (12~15)	幹	事	望月雅子 (07~10)
幹	事	関谷紀志 (17~20)	幹	事	豊永有美子 (12~15)	幹	事	斉藤美根子 (07~10)
幹	事	長谷川孝洋 (17~20)	幹	事	原 順子 (12~15)	幹	事	緋瀬健太郎 (07~10)
幹	事	勝呂 孝 (17~20)	幹	事	平野文星 (14~15)	幹	事	佐竹 篤 (07~10)
幹	事	中島由人 (17~20)	幹	事	小澤有礼 (12~15)	幹	事	小泉梨恵 (07~10)
幹	事	水野弥咲 (17~20)	幹	事	大野達男 (12~15)	幹	事	高島寛幸 (08~11)
幹	事	篠原直人 (17~20)	幹	事	太田孝一 (13~16)	幹	事	正木創一 (08~11)
幹	事	笠原菜央子 (17~20)	幹	事	山川利雄 (13~16)	幹	事	関根大助 (08~11)
幹	事	古山結子 (17~20)	幹	事	浅野雄介 (13~16)	幹	事	井上善史 (08~11)
幹	事	永野映更可 (18~21)	幹	事	筒井友恵 (13~16)	幹	事	登ヶ谷祐人 (08~11)
幹	事	勝又智子 (18~21)	幹	事	本多加奈 (13~16)	幹	事	金子浩二 (08~11)
幹	事	西岡 基 (18~21)	幹	事	山本彩子 (13~16)	幹	事	内田 修 (08~11)
幹	事	後藤義明 (18~21)	幹	事	小栗美緒 (13~16)	幹	事	成田哲浩 (09~12)
幹	事	後藤奈津子 (18~21)	幹	事	勸使河原武史 (13~16)	幹	事	八木美由紀 (09~12)
幹	事	祭 興斌 (18~21)	幹	事	相見大輔 (13~16)	幹	事	川合貴子 (09~12)
幹	事	松田健嗣 (18~21)	幹	事	板橋紗綾香 (13~16)	幹	事	井上明子 (09~12)
幹	事	片柳健太 (18~21)	幹	事	武田泰弘 (13~16)	幹	事	徳田瑞希 (09~12)
幹	事	松原 慎 (18~21)	幹	事	浅石友里子 (13~16)	幹	事	斉藤真規 (10~13)
幹	事	本佐木枝里 (18~21)	幹	事	渡邊頌子 (13~16)	幹	事	長岡福也 (10~13)
幹	事	金井尊史 (18~21)	幹	事	河野奈津子 (14~17)	幹	事	上西智史 (10~13)
幹	事	廣瀬公彦 (19~22)	幹	事	脇田千草 (14~17)	幹	事	筒井靖子 (10~13)
幹	事	久保田真未 (19~22)	幹	事	綱島 昇 (14~17)	幹	事	杉山祥啓 (10~13)
幹	事	佐川彩子 (19~22)	幹	事	塚田泰章 (14~17)	幹	事	大津留真紀 (10~13)
幹	事	御所園智仁 (19~22)	幹	事	杉町カウエ (14~17)	幹	事	大友仁美 (10~13)
幹	事	砂原 誠 (19~22)	幹	事	小川 淳 (14~17)	幹	事	佐野京子 (12~13)
幹	事	阿部裕樹 (19~22)	幹	事	内村 彩 (14~17)	幹	事	鈴木亜希子 (12~13)
			幹	事	渡邊賢治 (14~17)	幹	事	園部真子 (12~13)
			幹	事	井出知里 (15~18)	幹	事	長谷川郁子 (11~14)
			幹	事	石川奈緒子 (15~18)	幹	事	松下夏葉 (11~14)
			幹	事	井所博志 (15~18)	幹	事	竹腰真裕子 (11~14)
			幹	事	金田亜由美 (15~18)	幹	事	後藤暢宏 (11~14)
			幹	事	小倉宏紀 (15~18)	幹	事	竹村 直 (11~14)
			幹	事	宮腰治憲 (15~18)	幹	事	木下真由美 (11~14)
			幹	事	田野口晴太 (15~18)	幹	事	小森美雪 (11~14)
			幹	事	菅家奈都美 (15~18)	幹	事	若月朋子 (11~14)
			幹	事	瀬谷和正 (17~18)	幹	事	杉野美紀 (11~14)
			幹	事	岩井小百合 (16~19)	幹	事	齋藤久美絵 (11~14)
						幹	事	川村友江 (11~14)

校友会だより

総会



国際関係学部校友会

平成二十三年七月二十三日(土)十六時からみしまプラザホテルにおいて総会が開催された。
司馬重明副会長の司会で横山雅人副会長の開会が伝えられ進行され、相田信次会長挨拶、本会功労者表彰が挙行され西村典子・奥田・瀬川三氏に感謝状が授与された、続いて議事に移り、議長閉書記が提出された。議長には早川清文幹事、副議長には松原裕三常任幹事、書記には平岩美知子幹事が選出され、次の議事が報告及び審議された。

- 平成二十二年事業報告
- 平成二十二年決算事業報告
- 監査報告
- 平成二十三年新幹事選出
- 平成二十三年事業計画(案)
- 平成二十三年度予算(案)
- 各周年事業準備金に関する件
- 国際関係学部校友会会長賞等

- 一 給付規程改正に関する件
 - 一 国際関係学部校友会会長賞等表彰規程に関する件
 - 一 国際関係学部校友会会則改正に関する件
 - 一 各活動報告
 - 一 その他
- 田中由雄幹事長から平成二十二年事業報告がなされ、続いて平成二十二年決算報告が山瀬匠常任幹事(会計担当)から報告、藤本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。
- 続いて平成二十三年新幹事とし国際関係学部五名、食物栄養学科十三名を事務局から推薦した旨の提案があり承認された。
- 平成二十三年事業計画(案)に関する件は田中由雄幹事長から平成二十三年度予算(案)に関する件は山瀬匠常任幹事(会計担当)から内容説明がなされ審議の結果、原案とおり承認され二案の削除となった。
- 各周年事業準備金について柴田正顧問から、日本大学創立二五〇周年(平成五十年)は一、〇〇〇万円、国際関係学部創立五〇周年(平成四十七年)は八五〇万円、三島学園開設七十五周年(平成三十三年)は七五〇万円を目標額として報告された。会長賞等給付規程改正並びに表彰規程に関する件については田中由雄幹事長からより多くの在学生に給付したいとの目的で給付規程第六条一項の給付額を五、〇〇〇円から三、〇〇〇円に改正した。それに伴い事後承認となるが日本大学国際関係学部校友会表彰規程を制定した旨の提案説明がなされ承認された。
- 会則改正に関する件については田中由雄幹事長から会則第五、六条、会則構成(第二項及び第二項の構成員の議決権を明確に表示した。また、第二十二條表彰改正)に第二項として卒業予定者及び在学生の表彰規程を設けた提案説明がなされ承認された。
- 役員改選に関する件については田中由雄幹事長から現役員の任期が平成二十四年三月三十一日付で満了とな

るが次期役員を審議していただきたい旨の提案がなされ審議の結果現役員の再任となった。

各活動報告では、浅田義志子桜栄会会長から第五十一回桜栄会総会が平成二十三年七月三十一日(日)に日本大学国際関係学部校舎十五号館で開催され来賓者合わせ六十名の参加があった旨の報告がなされた。

その他としては田中由雄幹事長から平成二十三年七月一日開催の日本大学校友会役員総会に各支部正会員数の報告があり本学部校友会正会員数は四十五名であり加入促進に協力願いたいとの要請があった。また相田信次会長から同日会長の選任が審議された田中英壽現会長が再任された旨報告がなされた。

柴田正顧問から国際関係学部及び短期大学部卒業生の就職先等に校友会として協力したい旨の要望があり、濱田義之副会長の閉会の言葉で総会は終了した。

総会終了後、懇親会を開催した。田中由雄幹事長の司会で進行され、校歌斉唱に始まり相田信次会長挨拶の後、来賓挨拶として齋藤正道校友会本部事務局次長及び佐藤三武朗国際関係学部長の祝辞があった。来賓紹介の後、若松俊雄国際関係学部事務局長による乾杯のご発声で懇談に移った。

国際関係学部体育会所属のダンス部六名によるチャイロ・ディンクが披露された。鈴木充常任幹事の指揮のもと応援歌となり、石川貞夫顧問により万歳三唱で閉会となった。

国際関係学部同窓会

平成二十二年八月二十一日、第二十七回国際関係学部同窓会総会・懇親会が三島市のみしまプラザホテルにて開催されました。今年度の同窓会総会には約四十名の卒業生、来賓の先生方が集いました。

総会では宮下同窓会会長より挨拶があり、その後、事業報告、会計報告と続き、次年度の事業計画が審議されました。なお今回は総会終了後国際関係学部校友会総会並びに懇親会への参加となりました。

懇親会におきましては、恩師である先生方と共に会員同士が思い出話に花を咲かせ、一層親睦を深められました。また、同窓会員のお子様や配偶者にも出席いただき終始和やかな雰囲気でお話され、懇親会は閉会となりました。

桜栄会

本年度は、第五十一回総会を平成二十三年七月三十一日(日)に日本大学国際関係学部十五号館で開催し、年間行事報告、会計報告などが行われました。恒例の講演会では、本学教授の小橋恵津先生をお迎えし、消化器疾患の最近の検査と治療方針について大変興味深いお話を伺いことができました。

引き続き行われた懇親会では会場をハノララウンジに移し、当番期を含む六十名の会員、国際関係学部長代理高橋章先生をはじめ恩師の先生方や国際関係学部校友会からの来賓をお迎えし、絶景を眺めながら懇親を深めることができました。当日は晴天にも恵まれ、会員の皆様は懐かし学び舎を堪能する事ができました。

本年度の会報「桜栄」(第四十六号、平成二十三年四月一日発行)は、懐かしい恩師の先生方や会員の皆様から頂いた近状報告や大学からのお知らせを掲載いたしました。また、昨年度の学科創設五十周年を記念した、学科と桜栄会が協力して行いました記念式典やコンサート、祝賀会の写真も多く掲載した五十周年記念の余韻が残る会報となりました。当番期の方々を中心に作成し、会員に発送いたしました。



桜栄会



国際関係学部同窓会

日本大学国際関係学部校友会会則

平成23年7月23日改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

第3章 会 員

(会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部（三島校舎）・専攻科食物栄養専攻・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部・大学院国際関係研究科・短期大学部（三島校舎）の在学学生をもって構成する。

- 2 特別会員・名誉会員並びに準会員は議決権は有しないものとする。

(会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徴収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

第4章 役 員

(役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
- 副 会 長 若干名
- 幹 事 長 1名
- 常任幹事 若干名
- 幹 事 若干名
- 会計監査 2名

(顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

(役員の選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会長或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。

(任 期)

第10条 各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

(役員の職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。
なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

第5章 会 議

(会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。

3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

(会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。

3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。

4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。

幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

(総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

2 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。

3 事業計画に関する事項。

4 予算・決算に関する事項。

5 会長の選任に関する事項。

6 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第6章 支 部

(支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

第7章 会 計

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

(会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第8章 会 則

(会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

(会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

(施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第9章 表 彰

(表彰)

第22条 本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。

2 卒業予定者及び在学生に対する会長賞等の表彰規定は別に定める。

第10章 除 名

(会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

2 国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。

3 校友会の秩序を乱したとき。

4 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は平成23年8月1日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65 支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)
 東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
 東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
 東京都第六・東京都第七)
 東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
 北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)
 近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
 四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
 九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(16 部会)

本部大学院・法・文理・経済・商・芸術・国際・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(4 部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会

桜 門 会

海外特別支部(8 支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・インドネシア

日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)

三島豫科
三島教養部
文理学部(三島)

短期大学部
桜文会(国文・英文)
商経科同窓会(1・2部)
桜栄会(家政・食栄・生活)
工科同窓会(建築・機械)

国際関係学部同窓会